

ぼくの^{あし}足、きみの^{あし}足とちがうでしょ？

「義足」

っていうんだ。



「義足」は、^{あし}足の代わりになる^{どうぐ}道具だよ。

^う生まれつき^{あし}足のない^{ひと}人や
^{びょうき}病気や^{じこ}事故で^{あし}足がなくなっ^{ひと}てしまった^{つか}人が使うんだ。



^{ぎそく}義足だと
^{はや}あまり早くは
^{はし}走れなくてさ





はし バネで走っている!



アメリカのジャリッド・ウォレス選手はパラリンピックにも出場する短距離走の選手。はいている義足は、日本のサイボーグ社製だ。



せかいちとおと 世界一遠くまで飛ぶ ぎそくせんしゅたんじょう 義足の選手も誕生!

ドイツのマルクス・レーム選手は、この陸上用義足をはいて、2018年、走り幅跳びで、オリンピック選手の記録を超えたんだ。義足の選手が世界一の選手になったんだね。

だいかつやくいたつかぎそく パラリンピックでも大活躍の板バネを使った義足だよ

パラリンピックなどでよく目にする陸上競技用の義足は、カーボンファイバーという軽くて強い素材でできているバネ足の義足だ。

バネの力が強いほど早く走れると思うけれど、そうではないんだって。自分の走りに合ったバネの強度を選ん

で、それに合うようからだを鍛えていく、そういう地道な努力を重ねて、義足が自分の足となり、早く走れるようになるんだ。

この義足を使いこなすことで、趣味のジョギングや鬼ごっこみたいな遊びもより楽しめるようになるんだって。



よーし!
ほくらは光より早く走ってるよ!

義足の底は、トゲトゲ! スパイクシューズみたいになっているから、公園などで使う場合は、義足の足先にジョギングシューズをはいたりするよ。

カーボンファイバーでできたバネの部分には700グラムしかないのに、1トン近くの重さに耐えられるんだ。

成長に合わせて作りかえる

義足はくつと同じ。大きくなるたびに作り直すんだ

くつのサイズが合わなくなったら新しいくつにするように、義足もからだが大きくなるたびに作りかえるよ。毎日使うし、たくさん歩くとこわれることもあるから、子どものうちは半年～1年くらいで作りかえるかな。

作りかえるだけでなく、ネジがゆるんだり、ぶつかけたりして、修理することもある。義足がないとぼくは歩けない。本当に大事なものなんだ。義足を触りたいときは、勝手に触らずに、声をかけてね。

ぼくの
これまでの
義足



0歳

ハイハイのときはつけない
赤ちゃんのころは足がなくてもハイハイができるから、からだがつまみ分けたえられるんだ。



2～3歳

つかまり立ちから義足
立ちたい気持ちが出てきたら、からだをバランスよく発達させるために義足をつけはじめた。



4～6歳

走ったり、はねたりできる
義足でたくさん遊べば、使いこなすのも早い。みんなと同じように走ったり、はねたりできるよ。



いま7歳

義足はぼくの足！
ぼくの義足は、ぼくの足。はくのが当たり前。家に帰ればぬいじゃってるけどね。

これまでに作った義足は7足。
これからも増えていくよ

そろそろまた義足を作り直す時期なんだ



もっと背が高くなりたいたいから、今度は……

ジャン！
すごい背が高くなる義足

問題は家に入れないことだ